

既存の公共施設を、見学施設から ESDの視点を取り入れた 環境学習の拠点施設へ変身させるノウハウを学ぶ!

レポート

持続可能な社会の構築に向けた“人”の育成を目指し、環境学習や施設見学等を行っている、地域ESD拠点の津山圏域クリーンセンター・リサイクルプラザで、所長&名物講師の中平徹也さんから、ESDの視点からデザインした施設展示や指導方法のポイント、学校との連携について学ぶ研修会を開催しました!

研修会概要

日時: 2018年10月18日(木)
13:30-16:30
場所: 津山圏域クリーンセンター・
リサイクルプラザ
(岡山県津山市領家)
参加者: 26名(NPO 2、行政 8、
企業15、一般 1)

研修会で何をしたの?

1. 施設と環境学習の概要のレクチャー



津山CCの環境学習のねらいは、子どもたちに、「発見→関心→学習→実践」を繰り返す行動サイクルを持ってもらうこと。そのために、環境問題の現状や本質、正しい知識を、分かりやすく伝えます。



ステークホルダー(ESDコーディネーター・自治体・教育委員会・教育機関・地元NPO等)による支援は不可欠!

2. ESDデザインの施設展示を見学

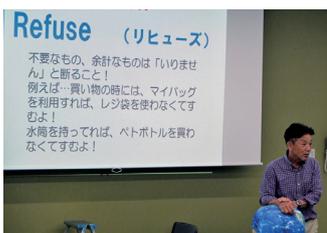


実際に施設を見学しながら、ESD環境学習プログラムを体験。クレーンでは、ゴミ落下のデモで子どもたちの注意を惹き、圧縮・梱包機では、ゴミを圧縮することで、運搬エネルギーの節約になることを話します。



施設や機械の説明ではなく、「なぜ、そうするのか?」の理由を考えさせること。

3. 施設と環境学習の概要のレクチャー



従来の環境学習プログラムと比べて、何をどう変えたのか、を余すことなく伝授! 子どもたちに「私たちにできる地球にやさしくらしは?」と尋ねると、持続可能な社会につながる学びになったことが分かります。



DO(体験する)→LOOK(見つめる)→THINK(考える)→GROW(腑に落ちる)を繰り返すESD循環。

4. グループトーク



研修を踏まえ、「これから環境学習施設には何が必要か、そのために何をするか」等をテーマに、グループで今日の学びをシェアします。



講義を受けるだけでなく、自分事の学びを持ち帰る。

参加者は何を思った?

- 同じ課題を抱えている同業施設として、とても参考になった(クリーンセンター運営者)
- 子どもの反応が良いクレーンなどの設備を、施設デザインの中心にしていたが、廃棄物処理が持続可能な社会づくりにつながる点こそ、フォーカスするべきだと見直すことができた(施設施工業者)
- 普段従事している作業が、持続可能な社会づくりにつながっていることが分かった(クリーンセンター組合職員)



主催・お問い合わせ



中国地方
ESD活動支援センター

TEL: 082-555-2278 Eメール: cgesdc@chugoku-esdcenter.jp
住所: 730-0011 広島市中区基町11-10 合人社広島紙屋町ビル5階